

---

# 魔法少女パラレルなのは

ラム

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女パラレルなのは

### 【Nコード】

N2253L

### 【作者名】

ラム

### 【あらすじ】

闇の書事件から、少したった、春。ゼウスと名乗る、少年が現れる。その子は、なんと、クロノとなのは子供だという

魔法少女パラレルなのは始まります

## 第壹話【これは、運命なの?】

第壹話【これは、運命なの?】

「この話は、闇の書事件が終わって、少したった春のことである

な「フエイトちゃん！ 仕事も終わったし、早く帰ろ〜

フ「そうだね」

ク「ちょっと待っててくれないか」

な「どうしたのクロノ君?」

リ「ごめんなさいね。ひきとめちゃって」

エ「物凄い、ものが見れるんだって（笑）」

フ「エイミィ。何でそんなに、笑ってるの?」

そのとき、部屋から出てきたのは、背の高い男の子だった」

「???」「母さん!すごく苦しい」

な「?????…ええええええ〜!!!!!」



で、ハデス君を生んだ事になるよ」

それを聞いてなのはは、頭から煙が出ている。クロノは、赤面している。そこに、はやて達が来た

は「おお〜この子が、なのはちゃんと、クロノ君の子供か」

シ「ホント、かわいいですね」

は「名前、なんていうん？」

ハ「ハデスだよ」

シ「ハデス！私と、戦わないか？」

ヴ「おいおい！止めとけよ」

フ「そうですよ」

シ「ヴィータとテストロッサは、黙っている」

ハ「良いですね。模擬戦やりましょうか」

ハ「父さん、お祖母ちゃん、訓練室を、貸してください」

ク「ああ、良いぞ」

シグナムと、ハデスは、戦うことになった

**第巻話【これは、運命なの？】（後書き）**

間違ってたら、指摘してください

5月16日、編集しました

## 第貳話【騎士VS最強×秘密×予言】

### 第貳話【騎士VS最強×秘密×予言】

ハデスとシグナムは、バリアジャケットを展開する

ハデスのバリアジャケットは、クロノのバリアジャケットに、マントを着けたみたいなやつだ。そして、ポケットから、レイジングハートとデュランダルを出して、起動させた

ク「デュランダルも、持っているのか!!」

ハ「シグナムさんは、剣のアームデバイスですよね？」

シ「ああ。そうだ」

ハ「それなら、砲撃用のデバイスは、卑怯ですよね」

レイジングハート・デュランダルを待機状態に、戻しポケットに直す。そして、首にかけていた2つのインテリジェントデバイスを、起動させる

ハ「炎鬼！雷王！セットアップ！」

炎鬼くえんき>雷王くらいおう>を右手と左手に構える

シ「では、始めよう」



ク「12歳で、そんな…！」

は「さすが、クロノ君となのはちゃんの、子供」

ハ「シグナムさん、騒がしいですし、これで終わらせましょう」

ハデスは、霊銃の形で、手を前に突き出した

ハ「スータイトバーストブレイカー！」

ハデスの放った、砲撃は、シグナムにあたって、ハデスが勝った

フ「デバイス無しで、なのはのスータイトブレイカー級の砲撃を」

リ「あの、砲撃は、なのはちゃんの5倍ぐらいの威力があるわね」

ヴ「あの剣、結局使ってねーじゃん」

は「確かに」

シ「はやてちゃん！喋ってないで、シグナムを運ぶのを、手伝ってください」

そして、シグナムが、起きるのを待っている間、クロノが神菜に質問した

ク「何のために、過去に来たんだ？」

神「えっと…母さんが14歳の時に、空から落ちるんです。その理

由が……／＼／＼」

は「なのはちゃんが空から……神菜君どうしたん？顔赤いで」

ク「おい！落ちた理由は、何だ！」

リ「クロノ！神菜君が、怖がってるじゃない」

神「……表向きは、疲労でなんですけど……」

は「じゃ〜真実は、なんなん？」

神「……妊娠です。調子が悪いのに、無理して隠して、任務の帰りの襲撃に襲われて……」

な「……………」

ク「……………」

は「でも、未来の、なのはちゃんは、元気やね？」

神「……………」

シ「まさか……」

神「管理局の、悪魔として悪魔として名の通った、有名人です」

は「今二回、悪魔って言ったな」

エ「でも今は、ふたりとも恋人どうしでもないのに、あと4年で、

妊娠するかな？」

な「あのお〜…えっ〜とね……………」

ク「僕が言おう。実は、闇の書事件が始まる前からなのは、付き合ってる…」

な「クロノ君／＼／＼／」

大事な、秘密…明日に向かって、リリース

**第2話【騎士VS最強×秘密×予言】（後書き）**

5月16日 編集

紹介

名前 高町ハデス・ハラオウン

名前の由来 神話に出てくる神の名前が由来

デバイス レイジンググハート・デュランダル（A Iが内蔵されている）  
・炎鬼（形は、日本刀で大太刀。炎が灯せる）  
・雷王（形は、剣。長さは、長剣で2メートルもある。電気が灯せる）

**第参話「未来は、変えられないの？」（前書き）**

すいません！ 今、忙しくて最新おくれました

この、小説読んでる人、いるのかな（涙）

魔法少女パラレルなのは！ 始まります

## 第参話【未来は、変えられないの?】

第参話【未来は、変えられないの?】

クロノとなのはの関係が、打ち明けて今は、翠屋でケーキと紅茶を、前にして。なのは・クロノ・フェイト・はやて・エイミー・リンデイ・桃子・士郎・ハデスが、居る。ほかの人は、アースラで待機中だ

桃「初めまして（\*^|^\*）あなたが、ハデス君ね?」

な「お母さん。あのね…大事な話があるの」

ク「みんなも、聞いてくれ。神菜は、僕たちが、喋り終わるまで黙っていてくれ」

ハ「はい！わかりました」

桃「大事な話って何かしら」

な「私、クロノ君とお付き合いをしてるの」

士「何!…かわいい娘を！よくも…」

桃「あなたは、ちょっと黙ってて!」

桃「あら、そうなの(ニコ)クロノ君、これからもなのは事よろしくね」

ク「はい。それで今日、未来の子供のハデスを保護して、話を聞いたところ、なのはが14歳の冬に、落ちる・・・かもしれないんです」

桃「あら、まあ・・・」

ク「あの、心配じゃないんですか？」

桃「それは、自分の子供ですもの。すごく心配よ。でも、大事なのは、未来の事なんだから、まだ手遅れじゃないんだから」

士「なのは…なのはは、何で落ちるんだ」

ク「それは・・・僕との間の子供がお腹の中にいるのに…無理をして」

士「何！貴様、よくも、俺のなのはに…」

桃「だから、あなたは黙ってて！」

士朗さんが無残にも頭を、鋼のハリセンで叩かれて気絶した

桃「妊娠ね〜貴方達、出来るような「行為」してるの〜」

な「し してないよ〜／＼／＼／＼／＼」

リ「くまだね〜どこまでいつてるのかしら？」

な「えっと…キスぐらいまでかな…／＼／＼／」

桃「ホントに〜？」

ク「母さん達は、何を詮索しているんだ！」

リ「だって、気になるじゃない」

桃「なのはの同意があるなら、押し倒してもいいのよ〜」

ク「／＼／＼そんなこと、まだしませんよ…」

な「クロノ君！」

リ「じゃ〜何時になったら、押し倒すのかしら（笑）」

フ「みんな、話が違つとこにいつてるよ」

桃「でも未来は、換えられるのよね」

ハ「はい。一樣、難しいですが換える事は、できます」

つと、その時、ハデスが透けてきた

ハ「もう時間のようですね。母さん 父さん さようなら。未来の父さん達から、お土産として、いろんなデータが、入ったメモリーを渡しておくから…バイバイ ハデスは、消えた

な「ハデス君：（涙）」

ク「もう会えないわけじゃないんだから、元気出せ」

な「うん」

ハデスが、置いて行ったメモリーをリンディが拾う

リ「あら…これ、貴方達二人にしか、見れないそうよ。ここに書いてある」

な「ほえ〜」

こうして、未来を変えようと、みんなが動き出した

第参話「未来は、  
変えられないの？」（後書き）

5月16日 編集

第四話「ラブラブ×デート×尾行」(前書き)

皆さん、もしよろしければ、感想を書いてください

## 第四話「ラブラブ×デート×尾行」

### 第四話【ラブラブ×デート×尾行】

二人は、メモリーを受け取り、なのはの部屋で、メモリーを見ている

ク「なのは、これを見てくれ」

な「ミット式のユニゾンデバイス？」

ク「このユニゾンデバイスは、使用者の血液とリンカーコアを使って生みだすらしい」

な「でもユニゾンデバイスは、ベルカ式でしか、使えないんじゃないの？」

ク「未来じゃ、使えるんだよう」

な「このボタン何かな？」

なのはは、画面の、ボタンを押した。そしたら、魔法陣が現れプログラムぽいものが出てくる

未な「初めまして。高町なのはハラオウンです」

みク「なのは、過去の僕達に自己紹介してどうする」

未な「にやははくクロノ君に突っ込まれちゃった」

未ク「いろいろ説明があるから、本題に入ろう」

未ク「初めに、このメモリーは、僕となのはと僕の子供達しか見れないようになってるので悪しからず。まず、ユニゾンデバイスだが、未来にある種類の一つだ。このユニゾンデバイスは、特殊で二人の愛し合ったモノの血液とリンカーコアがいる。あと言うておくが、こいつは、言わば子供と同じだ。まず、言葉を教え、ご飯をやり、魔法の事を教える。まあ、言葉は、すぐに覚えるが問題は、使用者の仲が、壊れたらこのユニゾンデバイスは、死ぬ」

未な「もう！クロノ君。そんなこと、言わなくても、わかってるわよ。過去の私たちなら…でもこれだけは、覚えておいてね！ユニゾンデバイスは、物じゃないだよ。あと、ユニゾンデバイスを、生みだす決心が出来たら、メモリーの一番右のボタンを押して」

未ク「そろそろ、時間だ！なのは」

未な「わかった、また何かあれば、メモリーのボタンを押してなの！」

未ク・未な「それじゃバイバイ」

な「未来の、クロノ君かつこよかったね？」

ク「・・・なのは、どうする？」

な「ほえ、？」

ク「僕は、欲しい。なのは子供が」

な「／／／／ク クロノ君、何言ってるのかな(?!?)」

ク「ユニゾンデバイスの事だ！」

な「ああ〜びっくりした…私も、欲しいよ。／／／／クロノ君の子供」

そして二人は、覚悟を決めボタンを押した…魔法陣が出てきて、リンカーコアと血液が、否応無しが吸われる。そして、・・・生まれた!!!!!!!!!!!!!!

???「おぎゃ〜ばぶーうえ〜んうえ〜ん」

な「どうしよう。この子、泣き出したよ？」

ク「赤ん坊なら泣くのは、当然だ。まずは、この子の名前だ」

な「そうだよな。私は、お母さんだからしっかりしなきゃね!。子供の名前か・・・高町ラファエル・ハラオウンがいいと思うな。ラファエルは、天使の名前なんだけど、癒しが象徴の天使で、私達、家族を何時も笑顔で、癒してくれますように!って願いを込めて」

ク「ラファエル…良い名前だ」

な「実は、神菜君が来てから、ずっと考えてたの。クロノ君との子供の名前／／／」

ク「／／／／なのは…ありがとう」

クロノは、なのはの唇に自分の唇を押しあてる。そして、舌を出しお互い、絡め合う。「おぎゃ〜おぎゃ〜」ラファエルが、再度泣きだす

な「にゃー／／／／」

ク「なのは、落ち着け」

な「よしよし。あなたの名前は、ラファエルだよ」

ラ「…らはえる？」

な「そうそう。よく出来ました（\*^|^\*）私は、なのは。なのはママって呼んでね。こっちは、クロノ君だよ。クロノパパって呼んであげてね」

ラ「なのはママ　くろのはぱ？？」

こうして、なのはとクロノの家族が一人増えました



第四話「ラブラブ×デート×尾行」(後書き)

未な 未来なのは 未ク 未来クロノ

第五話【何で、そんなみんな驚いてるのかな】（前書き）

自己紹介

名前 高町ラファエル・ハラウン

性別 女

性格 真面目 天然 頑固 冷静

髪の色 なのはと一緒

瞳 黒

身長 110?

体重 18?

**第五話【何で、そんなみんな驚いてるのかな】**

第五話【何で、そんなみんな驚いてるのかな】

今は、午前1時。ラファエルは、寝ている

な「すごいねラファエル。もう、言葉が喋れるようになったね」

ク「魔法の事も一様は、理解したしな」

な「かわいいな？」

なのはは、ラファエルが丸まって寝ているのを見てつぶやいている

ク「問題は、母さん達に、どうやって説明するか…だな」

な「私たちの、娘ですとか？」

ク「バカか！そんなこと言ったら、またどんな目にあつか」

な「クロノ君がいじめる（涙）」

ク「よしよし」

な「でも今日は、もう遅いから寝ようか」

ク「寝ようか　って、僕も一緒に寝るのかい？」

な「もちろんなの」

なのはは、笑顔で振り返る。その笑顔に、クロノの枷が外れた。  
なのはを、押し倒したのだ

な「／／／／クロノ君？」

ク「すまん。なのは、また僕は・・・」

実は、クロノがなのはを押し倒すのは、これが初めてではない。  
だがクロノの最後の力で本番は、やっていない。やったとして、本  
番一歩手前までだ

な「謝らないで。私は、その・・・／／／／クロノ君となら・・・やっても  
いいんだよ」

ク「ごめん・・・なのはは、まだ10歳なのに・・・今日は、もう寝よう」

な「・・・うん」

二人は、なのはのベッドでラファエルと川の字で寝た

朝、今日は日曜日だ。まず、クロノが起きた。そして、クロノに  
抱きついていていた、ラファエルも起きた。

ク「おはよう。ラファエル」

ラ「おはよう。クロノパパ」

ク「なのはを起こそうか！」

ラ「うん！なのはママ、起きて！」

な「ムニヤムニヤとあと、五分…すび〜」

ク「なのは！起きろ」

な「クロノ君？…おはよう」

ク「おはよう。なのは」

ラ「なのはママ。おはよう」

な「ラファエルもおはよう」

こうして、三人は、階段を降りって行った…この後、事件が起きるとわしらず……

桃「おはよう、早いわね。なのは。クロノくん……その子誰？」

ラ「お祖母ちゃん。初めまして、高町ラファエル・ハラオウンです。よろしくお願いします！」

な「ラファエル！」

なのはが止めるが、遅かった

桃「お祖母ちゃん？……なのはの子供？」





ラ「ママ！怖い」

ラファエルが、なのはの後ろに隠れる

リ「ごめんなさい。リンディーお祖母ちゃんって呼んでね」

フ「私は、フェイト。呼び方は、伯母s…お姉さんって呼んでね」

桃「でも、士朗さんには、どうやって話そうかしら」

リ「この子は、家で面倒を見るといつのどどつでしょっつ」

な「でも、・・・」

リ「なのはちゃんもこの家に住めば良いんじゃないかしら」

ク「母さん、それは、良いですね」

桃子は、クロノが話し終わる前に、話し始めた

桃「良いじゃない、なのは。この家なら、学校にも近いし、友達の、フェイトちゃんもいるし、なんとって、愛するクロノ君が居るんですもの」

な「／／／／お母さん！」

ク「僕は、別にかまわない」

フ「私も、なのはとの生活、楽しみ」

リ「決まりね！」

こうして、なのはとラファエルは、ハラオウン家に住む事になっ  
た

## 第六話【なのはの一日】

### 第六話【なのはの一日】

なのはが、ハラウン家に居候するようになり、もう二週間がたった。これは、朝の様子だ

リ「フェイト！なのはちゃん達を起こして来てくれるかしら？」

フ「うん。わかった」

フェイトは、なのはを起こしに行く。なのはは、クロノの部屋で寝ている。もちろん、ラファエルも一緒だ。

フ「なのは！起きて！」

な「フェイトちゃん？・・・おはよう」

ラ「フェイトお姉さん、おはよう。」

フ「ラファエルもおはよう。」

ラ「フェイトお姉さん、おんぶして？」

フ「良いよ〜」

な「ごめんね。仕度するから、ラファエルの事お願い」

フ「わかった」

こうして、なのは達の、一日が始まる。なのは達は、学校に行くので、ラファエルは、アルフに任せて、二人は、学校に行った

な「はあ〜」

フ「なのは、ため息は、駄目だよ。不幸になっちゃうよ!」

な「だって、クロノ君が2日も帰ってきてないんだよ?」

フ「でも、クロノも変わったよ。だって、あのクロノが三日に一回帰ってきて、一週間に一回、デートに行くなんて」

な「にやはは!」

ア「おはよう!」

す「おはよう、なのはちゃん!フェイトちゃん」

な「アリサちゃん!すずかちゃん!おはよう」

フ「おはよう」

は「おはようさん!」

な「はやてちゃん!おはよう」

こうして、なのは達の、学校が始まった!っと言っても、今日か

ら冬休みなのである。体育館で、校長の話をなのは達は、聞いていた。でも、なのはは、今日クロノが帰って来る事で頭がいっぱいで、話を聞けていなかった。そして、帰り道

ア「また、知らない人に、告白されたのよ！>、へ、<」

ハ「告白されたからって、別に怒らなくても・・・まあ、心に決めた、すずかちゃんがいたとしても」

す「はやてちゃん！／＼／＼／＼」

ア「はやては、何時も要らない事言いすぎなのよ！人の事、言う前に自分の恋人作りなさいよね！」

ハ「なのはちゃん！フェイトちゃん！アリサちゃんがいじめる！」

フ「よしよし」

な「にゃはは」

す「そういえば、なのはちゃんとフェイトちゃんは、好きな人居ないの？」

フ「居ないよ」

な「・・・わ私も居ないよ」

は「あかんで、なのはちゃん。隠してんの、もろばねや！」

ア「なのは！好きな人居るの〜！」

す「アリサちゃん、多分、ユーノ君だよ」

ア「なるほど」

は「チツチツチツ違うで！」

ア「違うの！じゃあ誰よ」

は「クロノ君や！」

な「／／／／はやてちゃん！！」

ア「クロノってあの、フェイトのお兄さん！」

は「そうや」

ア「なら帰りに、フェイトの家に行って、クロノさんにあっていい  
て良いかしら？」

な「駄目だよ。クロノ君、久しぶりに、帰ってくるしラファエルの  
世話で忙しいもん」

は「す・ア「ラファエル？」

な「な何でもない！」

ア「余計気になるじゃない。絶対行くわよ」

いつのまにか、ハラオウン家のドアの前に……

な「ホントの、入るの？」

ア「ええ、もちろん」

は「私も、気になるわ！」

そして、ドアを開けて玄関に、入る。

ラ「なのはママ、お帰り！」

な「ただいま、ラファエルは、良い子にしてた？」

ラ「うん！洗濯物、干すの手伝ったの」

ア「（この子だね？）」

フ「（なのはとクロノの子供かな）」

は「ア・す」（えええええ〜！）」

ク「なのは、お帰り！」

な「クロノ君、帰ってたの？」

ク「今さっきな」

なのはは、クロノに抱きつき、キスをする

な「クロノ君、寂しかったよ〜」

ク「すまない。」

な「今日は、ずっとそばに、居てね？」

ア「こら〜！あんた達、人前で堂々とイチャイチャするな」

な「／＼／＼あう〜」

どつやら、なのは達は、アリサ達の事を、忘れていたらしい

な「にやはは。ごめんごめん」

ラ「この人たちであ〜れ？」

な「私の、親友のはやてちゃんにすずかちゃんにアリサちゃんだよ」

ラ「初めまして、高町ラファエル・ハラオウンです」

ア「これは、どうゆう事よ！」

な「実は、この子は、私達と、血の繋がったユニゾンデバイスなの」

は「この子が……！！！！！」

ア・す「ユニゾンデバイス？」

アリサとすずかは、ユニゾンデバイスを知らない。はやては、信じられないようだ。なのはは、丁寧に説明した

ア「なるほど」

は「でも信じられへんな」

す「ビックリだね」

フ「なのは、凄くうれしそうだね」

な「だって、クロノ君と久しぶりなんだもん」

ア「会うのは、何週間ぶりよ」

な「プライベートだと、三日で、仕事ありだと、一日ぶりかな!」

ア「どこが、久しぶりなのよ!」

は「そういえば、デートとかしてるん?」

な「たまにね。基本的には、休みの日は、ラファエルの面倒をみるか、くつついてるかな」

す「ラファエルちゃんってここに住んでるの?」

な「そうだよ。」

す「ってことは、なのはちゃんもここに住んでるの?」

な「//////まあ」

は「一緒にすんどったん!知らなかったわ」

ア「どんだけ、バカップルなのよ」

な「にははは」

は「フェイトちゃん、二人とは、隣の部屋やんな？」

フ「うん、そうだよ」

は「夜な夜な、変な声とか、聞こえてこっへん？」

フ「／／／／／．．．偶に」

な「／／／／フェイトちゃん！」

ア「あんた、まだ小学生でしょう！何してんのよ！」

す「アリサちゃんは、人の事言えないと思うな。だって、私の、家に泊まりに来た時は、いつもしてるだし」

ア「／／／／／な　　な　　すずかは、黙ってなさい！」

は「あかんわ。小学5年生なのに、発情しすぎや。まさか、すずかちゃん、なのはちゃん、妊娠してへんよね？」

な「本番は、やってないもん／／／／」

す「女の子同士じゃ、妊娠しないんだよ」

ア「ていうか、まだ、10歳じゃ子供作れないでしょ！」



なのはとクロノの同棲生活？が始まった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2253/>

---

魔法少女パラレルなのは

2010年10月31日07時05分発行